

受験番号

(2枚のうちその1)

令和8年度 大学院保健学教育部 博士前期課程 第3期 入学試験(検査技術科学コース) 解答紙

I

(問1)

(解答例) COPDに至る主な環境要因として、喫煙、室内および屋外からの有害粒子やガス状物質が挙げられる。また、宿主の要因として、肺の成長の異常および肺の老化の加速も COPDに至る要因である。

(問2)

(解答例) PRISmは、可逆性試験後の1秒率(FEV1/FVC)が正常範囲(70%より大)であるが、対標準1秒量が80%未満の状態と定義されている。

(問3)

(解答例) PRISmの有病率は、住民を対象とした疫学調査によると7.1%~11%と報告されている。また、COPDgeneのような喫煙者と過去喫煙者に限定した疫学調査では、10.4%~11.3%と報告されている。

(問4)

(解答例) PRISmに至る危険因子として、現喫煙者、過去喫煙者、肥満(高BMI)または低BMI、女性、併存疾患の存在が挙げられる。

(問5)

(解答例) PRISmからCOPDに至る危険因子として、ベースラインの1秒率が低値、高年齢、現喫煙、女性、および強制呼気法(強制呼出手技)(FET)で呼気にかかる時間が長いなどが挙げられる。

受験番号

(2枚のうちその2)

令和8年度 大学院保健学教育部 博士前期課程 第3期 入学試験(検査技術科学コース) 解答紙

2

(問1)

・一般市民や医療従事者による抗菌薬の不適切な使用(過少使用・過剰使用)

・動物や農業での抗菌薬の不適切な使用

(問2)

最新の科学的根拠に基づき、最適な薬物療法を選択する医療の実践

(問3)

何も対策を取らなければ2050年には年間1,000万人以上の死亡が予想される

(問4)

「One Healthとは、人間、動物、植物およびそれらが共有する環境の相互関係を認識しながら、最適な健康成果を達成することを目的として、地域・国内・国際レベルで協力的かつ学際的に取り組むアプローチとして定義される。」

(問5)

大学教育でAMRおよびOne Healthの内容をカリキュラムに組み込むことは、将来の医療従事者がそれぞれの分野でAMRに効果的に対処できるように準備するために重要である。また、今日の医療従事者が学校での指導や教育を通して次世代に知識や技能を引き継ぐことを考えると、学生に対して厳格なAMR教育と訓練を提供し、能力を高めることが不可欠である。